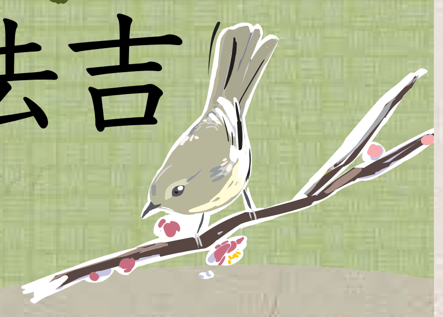
法吉

“うぐいす”ゆかりの緑豊かなまち

令和のまちあるきマップ

ほっき
法吉のことを教えるよ！

うぐいすと法吉



古く奈良時代の書物『出雲国風土記』には、嶋根郡法吉郷の説明で「宇武賀比売命（ハマグリの神様）が法吉鳥（当時のうぐいすの呼び名）に姿を変えてこの地に飛んでこられたことから法吉と呼ばれた」という地名起源説話が記されている。今は「法吉」と呼んでいる。

こうした由来から、法吉小学校の校章のデザインにうぐいすが採用されたり、「法吉」のカラーには鶯色が使われている。

* * *

時代は降り、今から約400年前の戦国時代になると、法吉も戦乱の渦に巻き込まれていくこととなる。この時代の法吉を代表する歴史遺産として「白鹿城跡」と「真山城跡」がある。

白鹿城跡

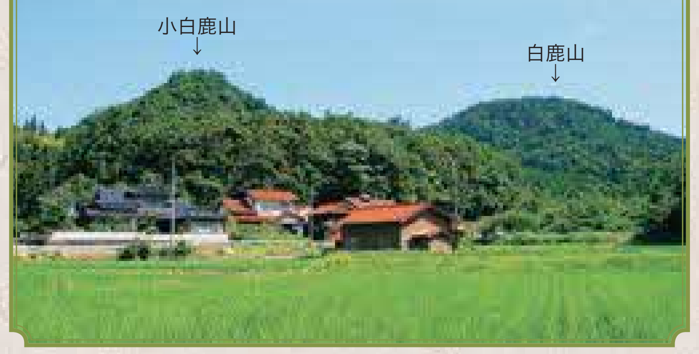
尼子と毛利の決戦は、白鹿城で始まる！

標高約150mの白鹿山に築かれた戦国時代の山城跡である。白髪城ともいう。尾根には本丸、水ノ手、井戸跡、一～三ノ床、大黒丸、小白鹿山（城）と呼ばれる曲輪（平坦に加工された土地）があり、中国明代の青磁、白磁皿、備前焼壺、甕、信楽焼の壺などの破片が採集されている。

戦国時代、尼子氏の本拠地であった広瀬の富田城を守る上で、島根半島や宍道湖・中海一帯は、船による交易の権利を持つことや戦略物資の補給路を確保するため軍事上大変重要な土地だったので、白鹿城を築いて戦略上の拠点とした。軍記物にも尼子十旗と記されるほど、重要な支城であった。城主は尼子晴久の姉（妹）婿、松田左近 誠保。毛利方は、出雲征服をもくろみ、永禄5年（1562）、毛利元就、吉川元春、小早川隆景の3人の武将が出雲にのりこみ、宍道湖北岸の荒隈山に荒隈城を築き前線基地とした。

しかし、富田城を攻めるにはどうしても白鹿城を攻め落とす必要があった。白鹿城をめぐる尼子・毛利の攻防戦は二ノ城戸大合戦や船木の戦をはじめ数回あったが、尼子倫久らの援軍もかいなく、永禄6年10月、ついに落城した。

登山口 長谷の奥と林道真山線沿い西ノ谷口の2方向から登れます。



真山城跡

山中鹿介、法吉の真山で奮闘す！

島根半島の山並みにある標高約256mの真山に築かれた戦国時代の山城跡である。新山城ともいう。本丸跡、一ノ床、二ノ床をはじめ尾根筋にはたくさんの曲輪や狭くて渡りにくい土橋が2か所、石積み遺構が1か所ある。すぐ南には尼子方の武将、松田氏のいた白鹿城がある。永禄6年（1563）、毛利元就が白鹿城を攻めた時、吉川元春がこの山を向かい城として陣どったという。白鹿城は同年10月についに落城した。やがて、永禄12年（1569）、尼子方の武将山中鹿介は、再び出雲を奪い返すため、京都にいた尼子勝久らと共に隠岐から島根半島に上陸し、真山城を攻略の足がかりとし、富田城奪還を目指した。しかし、富田城を目前に布部山の合戦に大敗するなどしてついに元亀2年（1571）真山を去った。その後、天正6年（1578）上月城（今の兵庫県にあった）で毛利軍と戦って敗れ、勝久は自害、鹿介は捕えられ、備中松山城（岡山県高梁市）にいた毛利輝元のもとへ差し出される途中、松山城を仰ぐ甲部川（今の高梁川）のほとりで殺された。34歳の波乱万丈の生涯であった。

登山口 白鹿下池の北東、林道真山線沿いから登れます。

四季の池

法吉小学校愛唱歌

春

法吉の里の
あけぼのは あけぼのは
ほのぼの智者ケ池 久米池
ほうほ けきょ けきょ
鶯の谷
宇武賀比売よ法吉鳥

夏

黒田の里は
入道雲 入道雲
湧く清水池 白岸池
水すまし すいすい
雲にまたがる
水の輪 天の涯までも

作詞 藤脇久稔
作曲 小林昭三

秋

春日の里に
月冴える 月冴える
うかぶ田原池 洗足池
とっこ とっこ とっこ
はらりと もみじ
親鹿 仔鹿 沢わたる

冬

比津の里は
雪明り 雪明り
こおる滝戸池 迫田池
ほたり ほた ほた
耳をすませば
潜戸の波が 寄せかえす

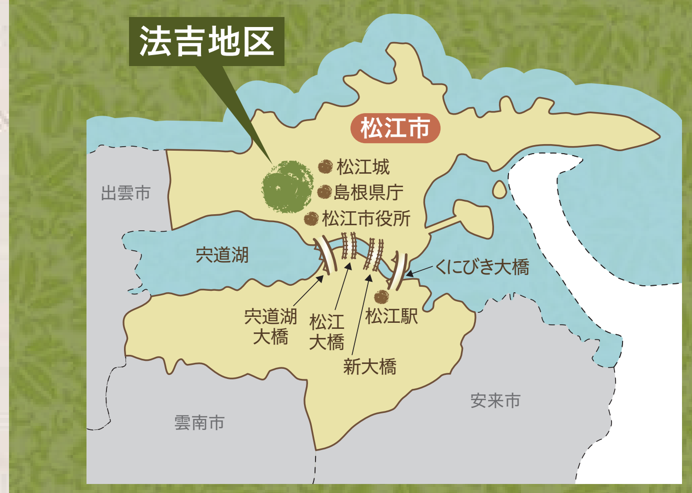
法吉公民館の歌

作詞 石川静代
補作 宮田隆
作曲 米山道雄

一
歴史に薫る 真山の
不撓不屈の 魂が
みんなの胸に 生きている
このふるさとに 手を結ぶ
われらの 法吉公民館

二
森よ 小川よ 野の花よ
光あふれる法吉野に
小鳥も群れて 歌う朝
道をもとめて ひたすらに
集いもたのし よき友ら

三
理想かざして 今日もまた
明るい暮しの 輪をひろげ
法吉の郷に 花ひらく
あすをめざして すこやかに
進むよ 法吉公民館



ACCESS

松江駅から法吉地区へのアクセス

バスで

法吉地区へは、ＪＲ松江駅から、市営バス北循環線・法吉ループ、及び一畑バス「恵曇」「御津」方面行きで約20分。最寄のバス停は裏面に記載しています。

〈編集〉
法吉まちあるき委員会

〈発行〉
松江市法吉公民館
〒690-0863 松江市比津町308番地4
電話 0852-21-4966 FAX 0852-21-5509
e-mail hokkik@mable.ne.jp

令和５年３月改訂

法吉コース 距離 2.8km 時間 約2時間30分

真山・白鹿山の周辺をめぐる

1 比津が丘東児童公園（ライオン公園） → 250m → 2 げんき地蔵 → 250m → 3 法吉団地塚山古墳公園 → 500m → 4 うぐいす台古墳公園 → 300m → 5 法吉神社旧跡地 → 500m → 6 白鹿城跡正面入口（長谷口） → 800m → 7 常福寺 → 200m → 8 白鹿ほたるの里公園

① 比津が丘東児童公園（ライオン公園）

団地の東、智者ヶ池に面した公園。近隣住民が桜を植え、年々立派に咲くようになった。平成22年4月「松江市花と緑のまちづくり推進協議会」から花づくりの最優秀賞を受賞した。ライオンの絵があることから子どもたちの間では「ライオン公園」と言われている。

② げんき地蔵

福祉施設の入口に建立されている。右手を空に突き上げた姿は、いかにも元気が湧いてきそうだ。子どもたちの間では、人気が高い。安来の彫刻家清水洋一氏の作。この前の道路沿いには、東生馬町境の阡陌から東方常福寺手前まで一丁地蔵が点在している。

③ 法吉団地塚山古墳公園

この団地を造成する際に調査された。一辺33m、高さ5mの方墳で、古墳時代中期（5世紀後半）に築造された法吉地区最大の古墳である。堀を巡らし、造り出しがある。中央に礫床をもつ舟形石棺があり、鏡、武具、玉を副葬していた。埴輪、須恵器も出土した。古墳の上に土盛りをして保存されている。

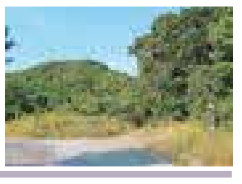
④ うぐいす台古墳公園

この団地を造成する際、調査された「伝宇武加比売御陵古墳」を実物大の大きさで再現した。一辺16m、高さ2m余の方墳で、南側に造り出しがあり、須恵器と円筒埴輪が置かれていた。中央に石組があり、刀子（小刀）と鉄鏃が副葬されていた。古墳時代後期（6世紀前半）に築造された。

⑤ 法吉神社旧跡地

うぐいす台団地集会所裏に「法吉神社御旧跡」と刻まれた石柱がある。元の法吉神社は鶯谷と呼ばれた谷の東向き山腹にある。隣地には歳徳神の宮倉があり、昔からのみこしが納められている。

⑥ 白鹿城跡正面入口（長谷口）

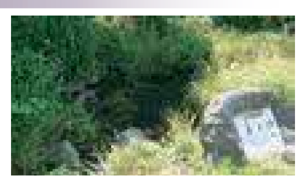


白鹿城跡のある白鹿山は、東西北が馬蹄形を成した山稜で、中央に長谷と呼ばれる谷があり南方へ口を開けている。駐車場のある登山口は、長谷の奥、池の手前にあり、頂上まで約30分ほどである。

⑦ 常福寺

曹洞宗のお寺。本尊は十一面観世音菩薩。島根札の第24番札所である。戦国時代、尼子方の普門西堂が本拠地として、毛利方と戦った。その頃の遺物、山中鹿介の拋石が伝わる。大正4年、芥川龍之介が真山登山の際に立ち寄った。又、境内には平成16年に地元の椿愛好団体が「常福寺」と名付けた椿の原木もある。

⑧ 白鹿ほたるの里公園



平成4～9年度にかけて常福寺の北から西へ流れる北田川（常福寺川）沿いに、長さ100mの自然護岸を整備し、ゲンジ、ヘイケ、ヒメボタルの成育環境の保全と育成を図っている。

春日コース 距離 1.0km 時間 約1時間30分

春日周辺の社寺をめぐる

1 伊吹堂 → 10m → 2 尾後縄手 → 300m → 3 法吉神社 → 100m → 4 須賀神社 → 250m → 5 毛利陣屋跡と薬師堂 → 50m → 6 旧法吉小学校と役場跡 → 300m → 7 松崎神社

① 伊吹堂

島根札の第25番札所である。小公園の奥にある。中央に南無大慈大悲観世音菩薩坐像、右側に南無地蔵願王菩薩立像が安置されている。

② 尾後縄手

法吉町尾後から春日町摩利支（天）山までの水田地帯に、東西に走る尾後縄手、洗足縄手と呼ばれる南北幅約1町（約108m）間隔の農道があった。今の北循環線は、天王縄手であった。田んぼを1町ごとに区画し碁盤の目にした奈良時代の条里制の名残りである。

③ 法吉神社

祭神は、宇武賀比比売命。この神は『出雲国風土記』島根郡法吉郷の地名起源説話に登場する。元は白鹿山の南西、鶯谷の山腹にあったが、江戸時代の頃から現在地へ移したという。

④ 須賀神社

素盞嗚命を祀る。7月15日に夏祭があり、茅の輪くぐりもある。白鹿山に住む老いた鹿が、縄手に出てきて足を洗って神社に向かうと、10月の秋祭りの準備を始めると伝える。

⑤ 毛利陣屋跡と薬師堂

毛利方が白鹿城を攻めた時に陣屋（野営地）が置かれたという。又同地に薬師堂もある。山上尾根部には、北へ向かって平坦部や溝状の窪地が認められる。

⑥ 旧法吉小学校と役場跡

明治25年、それまで龍雲寺にあった小学校が、春日町に移転し「島根県島根郡法吉村尋常小学校」に改称された。法吉村役場も東に隣接していたが、昭和21年8月16日、火事で全焼し、貴重な歴史資料や行政文書が焼失した。

現在の法吉小校章

⑦ 松崎神社

摩利支（天）山の頂上にある。祭神は、武甕槌命。出雲の国譲り神話で真っ先に高天原から降りてきたことから「松崎」となったと伝える。江戸時代、上がり口には「お茶屋」があって、殿さまが鷹狩りなどの際、ここに立ち寄られ休憩されたという。

黒田コース 距離 1.05km 時間 約1時間

黒田セリ栽培地の周辺をめぐる

1 照床神社 → 400m → 2 黒田セリ栽培地 → 150m → 3 龍雲寺 → 500m → 4 舎人坂の馬頭観音

① 照床神社

祭神は天照大神。古くは寺床神社といったが、江戸時代から今の社名になった。
子どもたちの遊び場があり、親しまれている。

② 黒田セリ栽培地

江戸時代、冬場の収入が無かったので、殿さまの勧めにより栽培が始まったと伝える。「島根みどり」と「松江むらさき」の2種がある。かつては生産農家が40軒もあり京阪神へも出荷していたが、後継者不足のため今は数軒の農家だけになった。

③ 龍雲寺

曹洞宗のお寺で本尊は聖観音菩薩。島根札のうち第29・30・31番札所がある。本堂左手に東郷平八郎筆の「日露戦役記念碑」と子どもたちの健やかな成長を願った「子守り地蔵」がある。池の奥には石炭運搬隧道の出口が見える。法吉・生馬では江戸時代から石炭が採れた。法吉地区の坑口は10ヶ所ほどあり、大正～昭和時代まで採掘していた。境内には美しいキリシマの大群があり5月上旬に開花する。

④ 舎人坂の馬頭観音

松江藩の松平家6代目のお殿様、宗衍公は、馬が好きでよく遠乗りされた。ある時、その愛馬が亡くなったので、丁重に葬って、舎人坂に馬頭観音を祀って村人が拝んだところ、病気が治ったといううわさが広まって参詣者が絶えなかったという。

比津コース 距離 1.9km 時間 約2時間

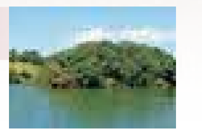
法吉公民館周辺をめぐる

1 円照庵 → 600m → 2 滝戸池 → 50m → 3 比津神社 → 300m → 4 比津地蔵尊 → 550m → 5 社日さん旧跡地 → 400m → 6 比津小丸山古墳

① 円照庵

島根札の第28番札所である。庫裏は平成20年度まで比津町自治会の公会堂として使用されていた。

② 滝戸池



池の水は日本海と通じているといい、大鯛が釣れたという伝説がある。

③ 比津神社

『出雲国風土記』所載の「比津社」で祭神は刀剣の霊神で国譲り神話に登場する経津主命である。境内左手に農業の守護神「社日さん」が祀られている。社日さんは、農耕にまつわる五柱の神さまの名を石柱に刻み、春分、秋分の日に近い頃に五穀豊穣を祈る祭礼です。

④ 比津地蔵尊

比津が丘団地造成の際、地区内にあった9軒の墓を移転し、その慰霊のため関係者が新たに「比津地蔵尊」を奉願し祀った。毎年8月24日に地蔵祭りがおこなわれる。

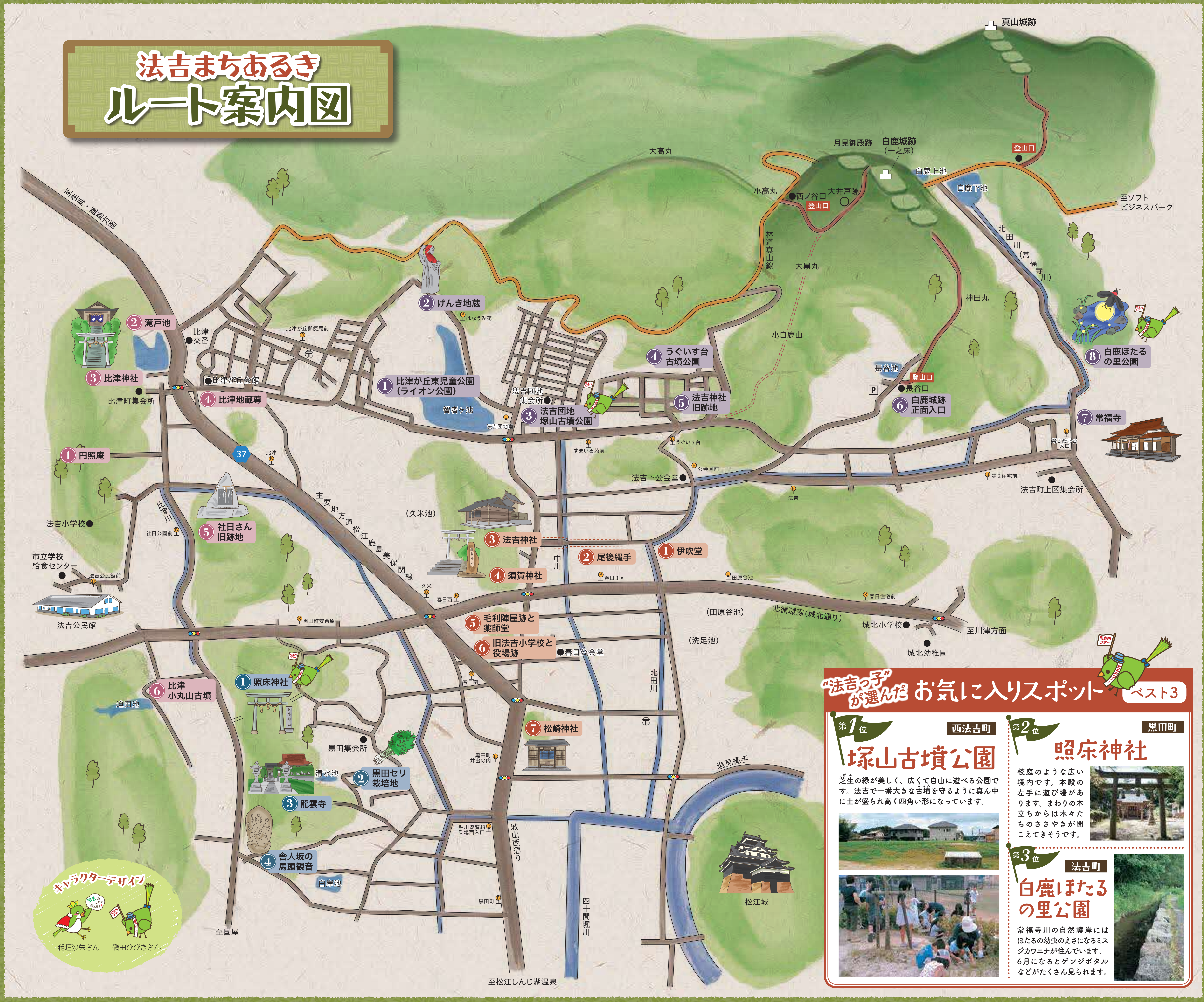
⑤ 社日さん旧跡地

丘陵の中段にかつて「社日さん」が祀られていたが、近年、比津神社境内に移設された。他に、「一畑薬師灯篭」、元滝戸池の西南堤体上にあった「耕地整理記念碑」、社日さんの由来を刻んだ「石碑」もある。

⑥ 比津小丸山古墳

長さ26mの前方後方墳で、古墳時代中期（5世紀代）に築造された。小高い丘の上にあり、周囲から眺めると大変壮大な墓に見える。

法吉まちあるき
ルート案内図


真山城跡
登山口
至ソフト ビジネスパーク
月見御殿跡
白鹿城跡 (一之床)
白鹿上池
白鹿下池
大高丸
小高丸
西ノ谷口
登山口
大井戸跡
林道真山線
大黒丸
神田丸
北田川(常福寺川)
小白鹿山
長谷池
登山口
長谷口
P
⑥ 白鹿城跡 正面入口
⑦ 常福寺
⑧ 白鹿ほたるの里公園
町案内ツアー
第2淞北台入口
第2住宅前
法吉町上区集会所
法吉
至生馬・鹿島方面
② げんき地蔵
はなうみ苑
② 滝戸池
比津交番
比津が丘郵便局前
③ 比津神社
比津が丘会館
比津町集会所
④ 比津地蔵尊
① 比津が丘東児童公園 (ライオン公園)
智者ヶ池
法吉団地集会所
③ 法吉団地 塚山古墳公園
法吉団地南
④ うぐいす台 古墳公園
⑤ 法吉神社 旧跡地
うぐいす台
すまいる苑前
公会堂前
法吉下公会堂
37
比津
① 円照庵
主要地方道松江鹿島美保関線
(久米池)
比津川
社日公園前
⑤ 社日さん 旧跡地
法吉小学校
市立学校 給食センター
法吉公民館前
法吉公民館
③ 法吉神社
② 尾後縄手
① 伊吹堂
④ 須賀神社
中川
春日3区
田原谷池
久米
春日西
黒田町安台原
⑤ 毛利陣屋跡と 薬師堂
⑥ 旧法吉小学校と 役場跡
春日公会堂
(田原谷池)
北循環線(城北通り)
春日住宅前
城北小学校
至川津方面
城北幼稚園
(洗足池)
北田川
⑥ 比津 小丸山古墳
迫田池
① 照床神社
春日南
黒田集会所
⑦ 松崎神社
黒田町 井出の内
清水池
② 黒田セリ 栽培地
③ 龍雲寺
塩見縄手
堀川遊覧船 乗場西入口
城山西通り
④ 舎人坂の 馬頭観音
白岸池
黒田町
四十間堀川
松江城
至国屋
至松江しんじ湖温泉
キャラクターデザイン
法吉のことを教えるよ!
稲垣沙栄さん
磯田ひびきさん

"法吉っ子"が選んだ お気に入りスポット ベスト3

第1位 西法吉町
塚山古墳公園

芝生の緑が美しく、広くて自由に遊べる公園です。法吉で一番大きな古墳を守るように真ん中に土が盛られ高く四角い形になっています。

第2位 黒田町
照床神社

校庭のような広い境内です。本殿の左手に遊び場があります。まわりの木立ちからは木々たちのささやきが聞こえてきそうです。

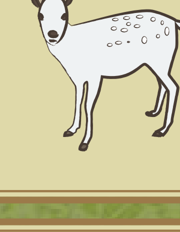
第3位 法吉町
白鹿ほたるの里公園

常福寺川の自然護岸にはほたるの幼虫のえさになるミスジカワニナが住んでいます。6月になるとゲンジボタルなどがたくさん見られます。

法吉の民話あれこれ

洗足池の白いしか

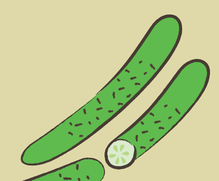
大昔のこと、春日さん(田原神社のこと)の祭りは、村人が大体の用意をしておいて、北の大山(白鹿山)から神さんの使いの白い鹿がおりてきて、宮の近くの池で足を洗って境内へ入ったら、その日が祭日になるそうだ。この池は洗足池といって、なんぼ泥で埋まってもすぐにきれいになったという。



胡瓜を植えてはならない村

春日町に何代も住んできた家ではいまでも胡瓜を作らないそうだ。胡瓜の切り口が京都の祇園にある八坂神社の神紋とそっくりで、恐れ多いことから自粛した春日の人々の信心深さに由来する。

須賀神社の神紋

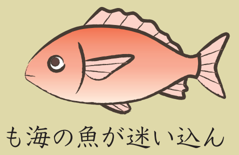


村人を守って死んだ小太郎

戦争で村人たちが苦しんだ戦国時代のこと。比津に土岐小太郎と名乗る侍がいて、村を荒らしに来る軍勢や山賊に立ち向かい、村と村人を守って戦い、そして討死にしたという。その墓は「ときぼとけ」といい、今でも比津の人々が大切にまつっている。

大鯛も釣れた滝戸の池

滝戸の池の底は、はるか加賀の潜戸までつながっていたから、いつも海の魚が迷い込んできて池の中を泳ぎまわった。大きな鯛がとれたこともある。池の横の比津神社は突抜(貫)大明神ともいう。地の底でつきぬけ、海とつながっていたことに由来するという。



白鹿山の白つばきの木

白鹿城の城主が戦に負けて切腹する前に、金銀財宝を穴に埋めその上に目印に1本の白椿の木を植えた。しかし、誰も訪れる者もなく枯れて朽ちたようである。白鹿山には、埋蔵金の番をしている大きな白蛇がいて、近づく者を食い殺すという。又、5月13日には山に入るな、この日に山に行くと、いくさのひびきが聞こえ、それを聞いた者はたちまち絶命するという。

舎人坂のばとう観音

松平家の6代藩主宗衍さんは、馬乗りが好きで家来も連れず、石原愛之助という名前でどこへでも行かれた。ある時、出雲大社参詣からの帰り、平田の布崎で馬が死んだ。殿さまは不憫に思って、国屋と黒田と外中原の境になる舎人坂の山に墓をこしらえた。村人が拝んだところ、どんな病気も傷もすぐに治ったという。その話を聞いた殿さまは、墓のそばにお堂を建て馬頭観音を祀った。その後この観音さんに参る者はたいそう多くなったという。